

牧草園藝

第十三卷第四号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可
昭和四十年四月一日（毎月一回一日発行）

長野之沼川字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農具



雪印種苗株式会社

関東東山地域における飼料作物及び

草地関係の試験成績要約 (II)

◎ソルゴーの品種別収量比較試験

- 1 目的 従来のソルゴー在来品種に代り、最近、多収性品種の作出、輸入も多いので、これらの特性及び収量を検討する。
- 2 実施場所 東京都種畜場
- 3 供試品種 黒粒在来種、ニューソルゴー NK145、雪印ハイブリッド、トルーダン（スーダングラスの交配種）
- 4 施肥量 (10㍍当たりキロ)
 - 基肥…硫安 90, 過石 48.3, 塩加 9.6, 厩肥 2000, 石灰 100
 - 追肥…一回刈後に硫安 20
- 5 播種法 畦幅 60 ㍍株間 30 ㍍, 1 株に 5~6 粒

- 6 播種量 (10 ㍍当たり) 1.0 キロ
- 7 播種期 5 月 16 日
- 8 収量調査 (10 ㍍当たり) (下表の通り)

考察

一回刈における各品種の生育相は、ニューソルゴー、トルーダンが出穂期、黒粒在来種、雪印ハイブリッドが穂ばらみ、NK 145 が最も早生で開花期であった。また再生力について見ると、黒粒在来種の他は皆良好であり、合計収量では、雪印ハイブリッドが初期生育時に鼠害にあり、全体的に収量が少なかったが、最も多く、その他には大きな差異はなかった。

品 種 名	生 草 収 量		合 計	比 率
	一回刈 (8/7)	二回刈 (10/15)		
ニューソルゴー	4,321キロ	3,847キロ	8,168キロ	100%
黒粒在来種	4,126	3,377	7,503	91.9
雪印ハイブリッド	5,768	4,197	9,965	122.0
N K 1 4 5	4,406	3,901	8,307	101.7
トルーダン	4,440	3,828	8,268	101.2

◎夏型飼料作物の適種選定試験

- 1 目的 牧草の夏枯れ対策として、夏型作物の種類比較及び施肥量について検討する。
- 2 試験場所 栃木県酪農試験場
- 3 供試作物 ローズグラス、ニューソルゴー、雪印ハイブリッド、テオシント、トウモロコシ
- 4 耕種概要
 - ・播種期 5 月 10 日 (但しトウモロコシは 7 月 10 日に 1 回刈後再度播種)
 - ・播種法、量 (10 ㍍当たり)
 - ローズグラス…散播 1.0 キロ
 - ニューソルゴー…60×15 ㍍ 1.0 キロ (2 本立)
 - 雪印ハイブリッド…60×15 ㍍ 1.0 キロ (2 本立)
 - トウモロコシ…60×15 ㍍ 8.0 キロ (1 本立)
 - テオシント…60×30 ㍍ 1.0 キロ (1 本立)
 - ・施肥量 (10 ㍍当たりキロ)

- 5 収量調査 (下図の通り)

6 考察

- ・生育状況
夏型作物は一般に初期生育の遅い欠点をもっているが、ローズグラス、雪印ハイブリッドソルゴーはトウモロコシと並んで 6 月中旬以降気温の上昇と共に旺盛な生育を示し、ニューソルゴー、テオシントに比較して、2~3 週間早くからの利用が可能と考えられる。
- ・収 量
生草収量では標準区、多肥区共トウモロコシ、雪印ハイブリッドソルゴーが優れ、次いでテオシント、ローズグラスであった。しかし、乾草収量では、各区共ローズグラスが最も多収を示し、乾草用としての価値が高いように思われる。
- ・増肥の効果
ローズグラスのように生育期間長く、刈取回数が多いものは、その効果が幾分認められたが、その他の生育期間の短い作物は標準区の施肥量が多いことにもよるが、それほど効果は認められなかった。

項 目	基 肥			追 肥			
	硫安	過石	塩加	厩肥	硫安	過石	塩加
標準区	10	15	7.5	100	2,000	10	7.5
多肥区	20	30	15	100	2,000	20	15
N 50%増区	30	30	15	100	2,000	30	15

